

言語化傾向 - 視覚化傾向質問紙改訂版作成の試み¹⁾

須永 範明²⁾・羽生 和紀³⁾

The Revised Japanese Version of Verbalizer-Visualizer Questionnaire : Relability and Validity

Noriaki Sunaga and Kazunori Hanyu

The present investigation aimed to construct a revised Japanese version of Verbalizer-Visualizer Questionnaire (VVQ-R) and to explore the validity of its two subscales—the Verbalizer Scale and the Visualizer Scale. In study 1, a factor analysis with iterations and a varimax rotation was performed on a 38-item questionnaire. The obtained factor structure consisted of 3 factors, two of which selectively represented the verbalizer dimension and visualizer dimension. The resulted Verbalizer Scale and Visualizer Scale were made up of 11 items and 9 items, respectively. Study 2 examined the relationship of the two scales of VVQ-R to vividness of visual imagery. The score of Visualizer Scale was significantly correlated to the vividness score, but that of Verbalizer Scale was not. In study 3, multiple regression analyses were conducted to show how well the score of the two scales predict the performance on verbal tasks and visual tasks. The Verbalizer score was found to be predictive of the performance on a verbal task involving memory. The Visualizer score failed to predict the visual task performance although the score showed a strong predictive power concerning the performance on some verbal tasks. These results were interpreted to provide a support to the validity of Verbalizer Scale, but no support to that of Visualizer Scale.

情報を言語的に処理する傾向の高い人と、視覚的に処理する傾向の高い人とがいることはよく知られている。Richardson (1977) は、この情報処理傾向における個人差を測定するため、言語化傾向-視覚化傾向質問紙 (Ver-

balizer-Visualizer Questionnaire : 以後、VVQ) を作成した。VVQは、Paivio (1971) のWays of Thinking質問紙から選択された15項目で構成されている。1週間の試行間隔をおいた再テスト法による検討でVVQは高

1) 本論文の研究1については日本心理学会第53回大会において発表された。研究3については同第54回大会において発表された。

2) 本論文を作成するにあたりましてご指導くださいました日本大学花沢成一教授に深く感謝いたします。

3) The Ohio State University

い信頼性（試行間相関係数： $r=.91$ ）を示した。また、社会的望ましきの影響は全く受けていないことが示唆された。Richardsonは、VVQの妥当性を支持する生理心理学的資料として、眼球の左方向への運動並びに呼吸の規則性とVVQの得点とが関連することを報告している。これは、大脳半球優位性と眼球運動の側方化とが対応するという知見と、視覚的イメージ想起時の呼吸が言語聴覚イメージ想起時に比べ規則的になるという知見とに基づくものであった。

VVQは、言語的処理と視覚的処理のどちらが相対的に優位な処理様式かを測る一次元の尺度となっている。そのためVVQの得点は高くなるほど視覚的処理傾向が高いことを示し、低くなるほど言語的処理傾向が高いことを示す。しかし、最近になって、VVQの二次元性を示唆する研究が報告されている（McGrath, O'Malley, Dura & Beaulieu, 1989；須永, 1988）。これらの研究では因子分析を用いてVVQの項目分析を行った。その結果、両者の研究において、言語的処理傾向のみを反映する因子と視覚的処理傾向のみを反映する因子とが見出された。VVQのほとんどの項目はこのどちらかの因子のみに高い負荷量を示した。このことから、言語的処理傾向と視覚的処理傾向という2つの情報処理特性は本来、相互に独立していることが推測される。

そこで、本研究では、言語的処理傾向と視覚的処理傾向とを別々に測定する2つの尺度（以後、それぞれ言語化傾向尺度、視覚化傾向尺度）からなる、新たな言語化傾向-視覚化傾向質問紙（以後、VVQ改訂版）の作成を試みた。研究1では、VVQ改訂版の2つの尺度を構成する項目を因子分析を用いて選択した。研究2では、視覚イメージの鮮明性とVVQ改訂版の両尺度の得点との関連を調べ、両尺度の妥当性を検討した。研究3では、両尺度の妥当性をさらに検討するため、両尺度得点と言語的課題および視覚的課題の成績

との関連を検討した。

【研究 1】

研究1では、VVQ改訂版の言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度を構成する項目を選択することを目的とした。また、作成した両尺度の得点が社会的望ましきの影響を受けているか否かについても検討した。

方法：

被験者 日本大学文理学部心理学科1年生134名が被験者として参加した。その内訳は男性59名、女性75名であった。

調査用質問紙 予備調査で選択した15項目に、新たに作成した23項目を加えた38項目からなる質問紙を作成した。これらは、RichardsonのVVQに含まれていた項目、それらを若干修正した項目、著者が独自に作成した項目であった。各項目の内容は言語的処理傾向あるいは視覚的処理傾向の高い（あるいは低い）人が示すと考えられる行動を記述するものであった。各項目への回答は5段階尺度でなされた。この尺度は、「同意する」、「どちらかという同意する」、「どちらともいえない」、「どちらかという同意しない」、「同意しない」、という5つの選択肢をもっていた。被験者は、各項目の記述が自分自身に当てはまる程度に応じて、選択肢から1つを選ぶことが求められた。社会的望ましきの測定には、Crowne & Marlowe (1960)の社会的望ましき尺度⁴⁾（以後、M-CSD）を用いた。M-CSDは33項目からなり、各項目への反応は、「はい」、「いいえ」の二件法でなされた。

手続き 134名の被験者に、調査用質問紙とM-CSDを続けて実施した。調査は集団場面でいった。

結果と考察：

項目分析 VVQの言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度に含める項目を以下のように選択した。まず、38項目のうち、他の項目と.6以上の単純相関係数を示した4項目を分析から

4) 末永 (1987) に掲載された邦訳版を用いた。

除いた。この4項目を除いたのは、このように高い項目間相関を示す項目が含まれていると、因子分析の結果得られる因子構造が表層的なものになる恐れがあるからである(芝, 1979)。因子分析は主因子法を用いた。因子数を2~6に定め、バリマックス回転を行った結果、因子数を3に指定したとき最適解が得られた。表1にいずれかの因子に.35以上の因子負荷量をもつ項目を示す。第1因子に属する項目は全て言語化傾向と関連する項目であり、第2因子に含まれる項目は全て視覚化傾向と

関連する項目であった。第3因子は、いずれの傾向とも明確な関連がみられず、その他の何らかの意味づけも見出し得なかった。そこで、第1因子に属する11項目で言語化傾向尺度を構成し、第2因子に属しかつ第1因子に、.3未満の負荷量をもつ9項目で視覚化傾向尺度を構成することにした。尺度間の相関係数は.375($p < .001$)であった。

信頼性の検討 言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度について Cronbach の α 係数を求めたところ、それぞれ、.824と.768であった。こ

表1 VVQ改訂版の各因子に0.35以上の負荷量をもつ項目

項目番号・質問項目	F.1	F.2	F.3
31 私は語句をたくさん知っている方ではない*	<u>0.758</u>	0.139	0.059
26 私は似たような語句でもわずかな意味の違いを指摘できる	<u>0.664</u>	0.201	0.143
3 私にとって、文字や言葉を使う仕事は楽しい	<u>0.635</u>	0.068	0.010
28 私は、なにかを書いているとき、適当な言葉が思いつかないことがしばしばある*	<u>0.539</u>	0.040	0.211
5 私は言葉でなにかを他人に教えるのが苦手だ*	<u>0.531</u>	0.129	0.115
8 私は文章を読むのが好きだ	<u>0.526</u>	0.122	-0.058
22 私は難しい文章でも速く読める	<u>0.525</u>	-0.007	0.058
37 私は、話をするとき言いたいことがすぐ言葉にならなくて困る*	<u>0.481</u>	0.093	0.122
1 私にとって、文字や言葉を使う仕事は楽しい	<u>0.463</u>	0.293	-0.002
24 私は、新しい語句を覚えるのに苦勞する*	<u>0.365</u>	-0.059	<u>0.453</u>
6 私にとって、新しい語句を覚えるのは楽しいことだ	<u>0.352</u>	-0.033	<u>0.482</u>
10 私はめったに夢を見ない*	0.086	<u>0.592</u>	0.267
19 私の空想はかなりばく然としてはっきりしない*	0.243	<u>0.591</u>	0.088
2 私の空想は非常に鮮明なので、まるで現実経験していることのように時々感じられる	0.017	<u>0.578</u>	0.013
16 私は非常に鮮明な夢を見る	0.041	<u>0.560</u>	0.230
4 私は想像力が豊かな方だ	0.239	<u>0.525</u>	0.046
34 私は、日頃あまり空想する方ではない*	0.019	<u>0.412</u>	-0.062
36 私は、見たこともないものでも説明されれば、そのだいたいの姿形を思い浮かべることができる	0.239	<u>0.406</u>	<u>0.526</u>
14 視覚的なイメージを使ってものを考えることは、多くの人にとって難しいと私は思う*	0.114	<u>0.389</u>	0.043
30 私は文章を読んでも視覚的なイメージがよく浮かぶ	0.306	<u>0.382</u>	0.243
9 私にとって、絵や写真、デッサンなどを見るのは退屈なことだ*	0.184	<u>0.375</u>	0.108
25 私は1, 2度見た程度では、その姿を正確に思い浮かべることができない*	-0.020	-0.119	<u>0.595</u>
27 私は、「戦争」や「正義」といった抽象的な語に対してははっきりとした視覚的なイメージを思い浮かべることができる	-0.098	-0.005	<u>0.552</u>
38 私は、「戦争」や「平和」といった抽象的な語の意味は絵や図では表せないと思う*	-0.101	-0.103	<u>0.491</u>
12 私は、目を閉じて友人の顔を鮮明に想像できない*	0.131	0.126	<u>0.482</u>
33 私は、昔見た文章や文句を今でもよく覚えている	0.346	0.096	<u>0.366</u>
23 私は、昔見た風景をあまり鮮明に思い出せない*	0.076	0.230	<u>0.363</u>
寄与率	11.94	8.55	8.10

*は逆転項目を示す。

の結果は両尺度を構成する項目が満足すべき等質性をもつことを示している。

社会的望ましさととの関連 M-CSDの33項目について次のように項目分析を行った。まず、各項目と、その項目以外の32項目の合計得点との点相列相関係数を求めた。その結果、19項目で有意な相関係数が得られた。これらの項目の合計得点を算出し、社会的望ましき尺度の得点とした。Kuder-Richardsonの公式20による α 係数は.671であり、同尺度の内の一貫性がやや低いことが示された。同尺度の得点とVVQの言語化傾向尺度および視覚化傾向尺度の得点との相関係数は、それぞれ.334 ($p < .001$)と.243 ($p < .01$)であった。

【研究 2】

VVQ改訂版の言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度は、それぞれ言語的な情報処理と視覚的な情報処理が個人の日常生活において行なわれる程度を測定するために作成された。言語的処理あるいは視覚的処理を頻繁に行う人は、その処理を実行するための能力が高いと考えられる。すなわち、言語的情報処理を頻繁に行う人は言語的処理能力が高く、視覚的情報処理を頻繁に行う人は視覚的処理能力が高いと推測される。視覚イメージの鮮明性は視覚的処理能力の一側面と考えることができる。このことから、視覚的処理能力が全般的に高い人は、鮮明な視覚イメージを想起する能力

を有すると推測される。従って、VVQ改訂版の視覚化傾向尺度が視覚的な情報処理傾向を反映するならば、同尺度の得点と視覚イメージの鮮明性との間には関連がみられると予測される。一方、言語化傾向尺度は視覚的情報処理傾向を全く反映しないと仮定されるので、同尺度の得点と視覚イメージの鮮明性との間には関連がみられないと予測される。

研究2では、VVQ改訂版の言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度の妥当性を検討するため、両尺度と視覚イメージの鮮明性との関連を調べることを目的とする。

方法：

被験者 看護専門学校の1年生94名を被験者として用いた。被験者は全員女性であった。

質問紙 視覚イメージの鮮明性の測定には Vividness of Visual Imagery Questionnaire (Marks, 1973; 以後, VVIQ)を用いた。VVIQとVVQ改訂版、M-CSDを集団場面で続けて実施した。

結果と考察：

言語化傾向尺度、視覚化傾向尺度、VVIQ、M-CSDの得点間の相関係数を表2に示す。VVIQの得点と視覚化傾向尺度の得点との間に有意な相関係数が認められた。この結果は視覚化傾向尺度の妥当性を支持する。言語化傾向尺度の得点とVVIQの得点との間には有意な相関係数は認められなかった。このことは言語化傾向尺度が鮮明な視覚的イメージを

表2 言語化傾向尺度、視覚化傾向尺度、社会的望ましき尺度、視覚イメージ鮮明性質問紙間の相関係数

	視覚化傾向尺度	社会的望ましき尺度 (M-CSD)	視覚イメージ鮮明性 質問紙 (VVIQ)
言語化傾向尺度	.087	.266 *	.144
視覚化傾向尺度		-.064	.216 *
社会的望ましき尺度 (M-CSD)			.108

* $p < .05$

想起する能力と関連の無いことを示唆する。しかし、この結果のみからVVQ改訂版の妥当性について結論を導くことは難しいと思われる。なぜなら、イメージの鮮明性の測定に自己評定法を用いた場合、個人間の差を必ずしも適切に反映しないことが指摘されている (Richardson, 1980) からである。また、言語化傾向尺度については、同尺度が言語的処理能力を反映することを示さないかぎり、妥当性が確かめられたことにはならない。

M-CSDの得点は言語化傾向尺度の得点との間に有意な相関係数が認められたが、視覚化傾向尺度の得点、およびVVIQの得点との間にはみられなかった。

【研究 3】

知能検査で用いられる認知的な課題のなかには、言語的処理能力のみを、あるいは視覚的処理能力のみを測定するものがある。VVQ改訂版の言語化傾向尺度が言語的処理能力を反映するならば、その得点は言語性課題の成績と関連すると予測される。同様に、視覚化傾向尺度が視覚処理能力を反映するならば、その得点は視覚的処理能力を反映するならば、と予測される。

研究3では、VVQ改訂版の両尺度の妥当性を検討するため、言語的処理を反映する課題と視覚的処理を反映する課題の成績と両尺度との関連を調べた。

方法：

被験者 日本大学文理学部心理学科2年生146名を被験者として用いた。その内訳は、男性68名、女性78名であった。

課題 集団式知能検査である京大NXを課題として用いた。京大NXは言語的な内容をもつ6検査、視覚的な内容をもつ4検査、数的内容をもつ2検査からなる。これらの課題の一部を図1に示す。

手続き 京大NXを通常の実施方法に従って、全被験者に集団場面で実施した。約3カ月後VVQ改訂版とM-CSDを集団場面で実施した。

結果と考察：

言語性課題、視覚性課題と言語化傾向尺度、視覚化傾向尺度との関連 京大NXとVVQ改訂版の両方を完了した被験者は89名(男性35名、女性54名)であった。これらの被験者について次の分析を行った。京大NXの6つの言語性検査の合計得点と4つの視覚性検査の合計得点を求め、それぞれ言語課題得点、視覚課題得点とした。合計得点の算出には素点ではなく偏差得点を用いた。VVQの両尺度得点を説明変数、言語課題得点と視覚課題得点を目的変数とした重回帰分析を行った。結果を表3に示す。言語課題得点については言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度の得点とともに有意な標準偏回帰係数をもつことが示された。しかし、視覚課題得点については両尺度得点とも有意な標準偏回帰係数は認められなかった。この結果は、VVQの両尺度の得点が言語課題得点について説明力をもつが、視覚課題得点については説明力をもたないことを示している。

表3 言語化傾向尺度得点と視覚化傾向尺度得点を説明変数とし、言語課題得点と視覚課題得点を目的変数とした重回帰分析の結果

課題得点	標準偏回帰係数		重相関係数
	言語化傾向尺度	視覚化傾向尺度	
言語課題得点	.222*	.387***	.445***
視覚課題得点	-.066	-.008	.066

* $p < .05$; *** $p < .001$

次に、VVQの両尺度と言語的情報処理との関連をより詳細に検討し、かつ両尺度が視覚的内容をもつ課題と全く関連しないのか否かを重ねて調べるため、京大NXに含まれる12の下位検査ごとに、その検査の得点を目的変数、VVQの両尺度の得点を説明変数とした重回帰分析を行った。この分析に際しては、数的処理とVVQの両尺度との関連を探索的に検討するという目的もあった。目的変数である各検査得点には素点を用いた。結果を表4に示す。言語化傾向尺度については12の下位検査の中で「日常記憶」の得点にのみ有意な標準偏回

① 類似反対語

こたえ

1. 教師—(6)師弟 (4)たんにん (2)先生 (1)校長 (3)家庭
 2. なまける—(5)あるく (7)はげむ (4)おきる (3)うごく (6)よろこぶ
 3. 原因—(1)成功 (5)結果 (7)出来事 (2)調査 (3)終結

④ マトリックス

こたえ

1.

見る	目	光
きく	耳	☆

 (1)におい (3)探 (7)はな (4)音 (3)手
2.

川	魚	およぐ
野	馬	☆

 (9)死ぬ (1)なく (2)引く (5)はしる (6)ねわる
3.

足	くした	二つ
頭	ぼうし	☆

 (5)手 (7)からだ (4)二つ (6)一つ (9)毛

⑤ 文章完成

1. きょう と思いながら、私は をしてしまいました。
 (8)やほり (3)とうとう (9)こそは (4)なんとか (7)だけ (6)は
2. 本を 頭にはいらない。
 (5)だから (2)なので (6)でも (7)しずか (9)いくら (1)もしも

⑥ 日常記憶

- さきに読んでおぼえた文を思い出して、つぎの間にこたえなさい。
1. 宿題はいつまでに仕上げよいか。 曜日
2. 今週の注意事項は。
 (8)運動場の清掃 (4)服装を正しくすること (9)教室内の清潔
 (5)礼儀を正しくすること (2)教室内の整頓
3. 試験は何曜日にありますか。 曜日

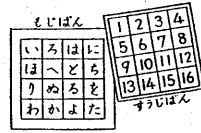
⑩ 乱文構成

1. ところは どちらも 船の 艇に 乗っている 自転車と
 (8)中があること (4)水にうかぶこと (1)黒い色をしていること
 (3)乗り物であること (6)外国人がのること
2. ひる 月の 照るが 照るのは 太陽は
 (9)秋 (5)朝 (3)夕方 (2)東の方に (1)夜

⑫ 単語完成

1. てんしゃ 2. し うじき 3. かん える
 4. だい ころ 5. そつ ょう 6. さわ かな

② 重合板



もじ板は動かない
すうじ板はうらが
えさない

こたえ

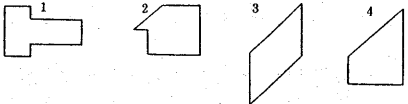
1. の上に に、 の上に を重ねると、 の上に何というう
じがくるか。
2. の下に は、 の下に を重ねると、 の下に何というもじ
がくるか。

⑦ 折り紙パンチ

こたえ

1. (1) (2) (3) (4) (5)
2. (6) (7) (8) (9) (10) (11)
3. (12) (13) (14) (15) (16)

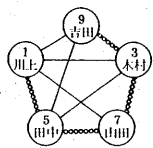
⑨ 図形分解



⑪ ソシオグラム

— 仲がよい
 ○○○○ 仲がある

1. 右の図の 5 人の中で友人の最も少ない人は何番ですか。
2. 友人の最も多い人は何番ですか。
3. 私の好きな友人の 2 人はお互いに仲が悪い。私の嫌いな 2 人の人はお互いに仲がよい。私は何番ですか。



③ 計算法

1. 1 ドルが 360 円であるとする、10000 円は何ドルか…の計算のしかた。
 (5)× (6)+ (9)+ (7)- (2)+
2. 太郎君は一週に 300 円、花子さんは一日に 50 円のおこずかいをもらいます。どちらのおこずかいが多いか…の計算のしかた。
 (7)+ (4)- (3)- (6)× (8)÷ +

図 1 言語性課題と視覚性課題の例

注) 各課題につけられた番号は課題の実施順序に対応する。言語性課題は①, ④, ⑤, ⑥, ⑩, ⑫。視覚性課題は②, ⑦, ⑨, ⑪。なお, ③は数的課題の例。

帰係数が認められた。このことは、同尺度が記憶に関する言語的処理を反応することを示すとともに、記憶以外の言語的処理についてはほとんど関連しないことを示唆している。視覚化傾向尺度については全ての視覚性検査の得点において有意な標準偏回帰係数が認められなかった。このことは、少なくとも本研究で用いた視覚課題の遂行に関する視覚的処理能力を、視覚化傾向尺度が反映していないことを示している。一方、同尺度は2つの言語性検査と1つの数的検査の得点において有意な標準偏回帰係数を示した。また他の2つの言語性検査の得点における標準偏回帰係数には傾向がみられた。視覚化傾向尺度が視覚的能力を反映する測度として作成されたにも関わらず、同尺度が何らかの言語的処理能力を反映することをこの結果は示唆している。同尺度は、言語化傾向尺度が説明力をもたない課題について比較的高い標準偏回帰係数を示した。このことから、視覚化傾向尺度がとらえる言語的処理能力の側面は言語化傾向尺度によって測定される側面と異なると考えられる。しかし、視覚化傾向

尺度が言語的処理能力のどのような側面をとらえているのかについては明らかではない。同尺度の中には「想像力」に関する項目が含まれている。これらの項目は視覚的な想像力ではなく、言語的な想像力を反映するものになっているのかもしれない。

社会的望ましさ、言語化傾向尺度、視覚化傾向尺度間の関連 言語化傾向尺度得点と視覚化傾向尺度得点はM-CSDの得点との間に有意な相関係数が認められなかった（それぞれ、 $r=.104$, $df=103$, $p=n. s.$; $r=-.004$, $df=104$, $p=n. s.$ ）。また、言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度との間にも有意な相関係数がみられなかった（ $r=.031$, $df=105$, $p=n. s.$ ）。

言語化傾向尺度、視覚化傾向尺度の得点分布 研究1～3で用いた全被験者をあわせ、言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度の得点分布を求めた。得られた得点分布を図2と図3に示す。Kolmogorov-Smirnovの検定を用いて分布の正規性を検討した結果、言語化傾向尺度については正規分布とみなせることが示された（男性： $D=.060$, $p=n. s.$, $n=101$; 女性： $D=.049$, $p=n. s.$, $n=225$ ）。しかし、視覚化傾向尺度の得点分布は正規分布とみなせないことが示唆された（男性： $D=.112$, $p<.01$, $n=102$; 女性： $D=.064$, $p<.05$, $n=228$ ）。図3によると、視覚化傾向尺度の低得点域で、言語化傾向尺度の得点分布でみられたと同様の緩やかな曲線が認められた。しかし、高得点域では、得点分布の曲線がやや緩やかなものではなくなっている。これは、視覚化傾向尺度の得点が全体的にやや高いことによると思われる。このことは、言語化傾向尺度の可能な得点範囲が0～44点であり、男性の平均が22.26（ $SD=8.082$ ）、女性の平均が21.33（7.787）であるのに対し、視覚化傾向尺度は、可能な得点範囲（0～36点）の上限が低いにも関わらず、平均得点は男性で24.85（ $SD=5.532$ ）、女性で24.24（5.742）とやや高めであることからうかがわれる。このため、高得点域の範囲が狭まり、緩やかな分布が得られなかったと考えられる。視覚化傾向尺度の得点分布を正規

表4 言語化傾向尺度得点と視覚化傾向尺度得点を説明変数とし、京大NXの12の下位検査の得点を目的変数とした重回帰分析の結果

京大NXの下位検査	標準偏回帰係数		重相関係数	
	言語化傾向尺度	視覚化傾向尺度		
言語的項目	①類似反対語	.145	.196+	.244+
	④マトリックス	.153	.320 **	.354 **
	⑤文章完成	.079	.403 ***	.410 ***
	⑥日常記憶	.219 *	.174+	.279 *
	⑩乱文構成	.131	.148	.197
	⑫単語完成	-.006	.128	.128
空間項目	②重合板	-.085	-.123	.150
	⑦折り紙パンチ	-.087	.145	.170
	⑩図形分解	-.026	.035	.044
	目④ソソオグラム	.020	.081	.084
数的項目	③計算法	.123	.218 *	.250+
	⑧符号交換	-.016	-.075	.128

+ $p<.1$; * $p<.05$; ** $p<.01$; *** $p<.001$

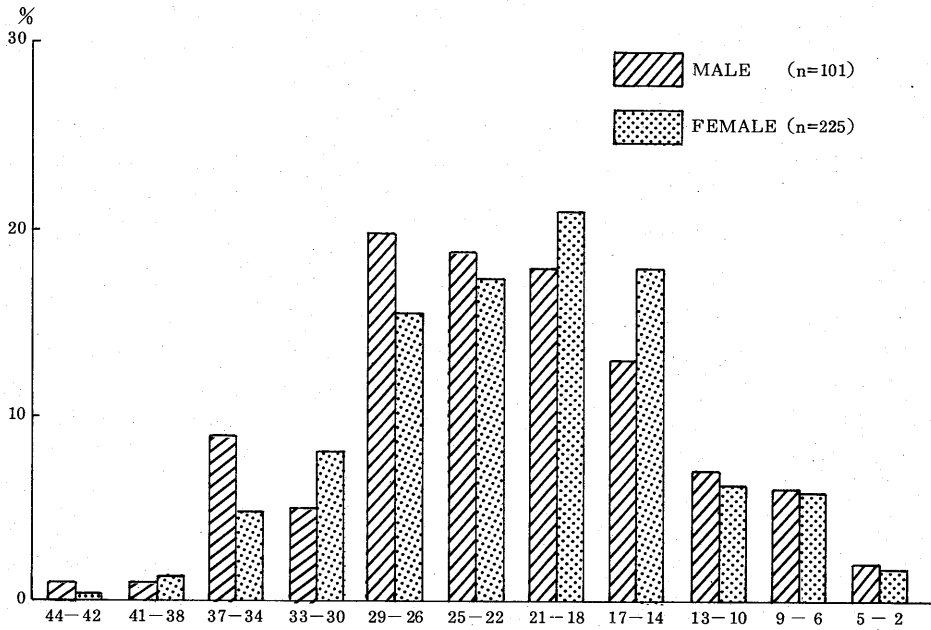


図2 言語化傾向尺度の得点分布

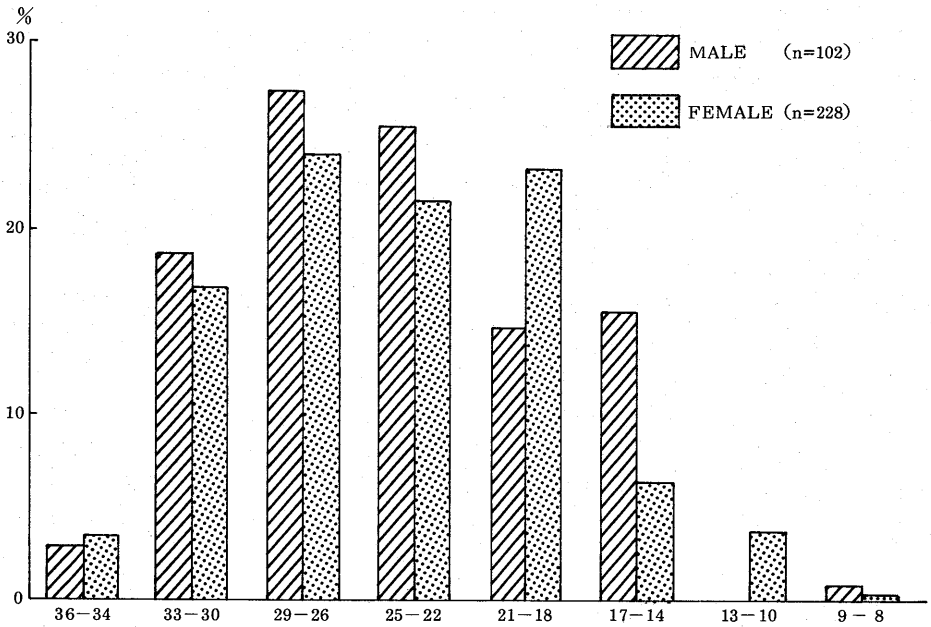


図3 視覚化傾向尺度の得点分布

分布に近づけるためには、項目を追加し、可能な得点範囲の上限を高くすることが有効であろう。

また、両尺度の得点において男性被験者と

女性被験者の間に有意な差はなかった（言語化傾向尺度： $t=1.130$, $df=324$, $p=n. s.$ ；視覚化傾向尺度： $t=.908$, $df=328$, $p=n. s.$ ）。

【全体的考察】

本研究では、言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度からなるVVQ改訂版の作成を試み、その信頼性と妥当性を検討した。信頼性については、言語化傾向尺度と視覚化傾向尺度はともに満足すべき水準の内的一貫性をもつことが示された。

妥当性については、言語化傾向尺度に関して支持されたが、視覚化傾向尺度については十分に支持されなかった。言語化傾向尺度は、言語的な記憶課題と関連があり、視覚的な課題とは関連がみられず、視覚イメージの鮮明性とも関連がなかった。このことから、言語化傾向尺度が言語的処理のある側面を反映するといえるだろう。研究1と研究2において、言語化傾向尺度の得点とM-CSDの得点との間に有意な相関がみられたが、研究3ではみられなかった。この結果は同尺度が社会的望ましさの影響を受けている可能性の大きいことを示唆すると解釈すべきであろう。しかし、この影響の程度は被験者群により比較的大きく変動し、その影響は最も顕著な場合でも、同尺度得点の分散の約10%にすぎない。したがって、社会的望ましさの影響は言語化傾向尺度の妥当性を否定するほど大きくはないと思われる。社会的望ましさは質問紙への被験者の反応を歪める重大な要因のひとつと考えられていることから、言語化傾向尺度を使用する際には社会的望ましさもあわせて測定し、同尺度得点が著しく歪められていないかを確認する必要があると思われる。

視覚化傾向尺度は視覚イメージの鮮明性と関連がみられたが、視覚的課題の遂行に関わる処理能力を反映しないことが示された。Richardson (1980) はイメージの鮮明性に関する自己評定が個人の視覚的処理能力の程度をあまり反映しないと指摘している。したがって、視覚化傾向尺度の妥当性について、本研究の結果は十分な支持を与えられなかった。視覚化傾向尺度は予測に反し、言語性課題の遂行に関与する処理能力を反映すること

が示唆された。このことから、同尺度は、やや高度な言語的課題の遂行に関与する想像力を反映していることが一つの可能性として考えられる。また、研究1でのみ、M-CSDの得点と同尺度の得点との間に有意な相関が認められた。このことから、視覚化傾向尺度は、社会的望ましさの影響を受けているとしても、その程度は比較的小さいと思われる。

言語化傾向尺度の得点分布は正規分布であることが示されたが、視覚化傾向尺度の得点分布は正規分布と認められなかった。視覚化傾向尺度の得点分布を改善する手段の一つとして項目数を増やすことが示唆される。

文 献

- Crowne, D. P. & Marlowe, D. 1960 A new scale of social desirability independent of psychopathology, *Journal of Consulting Psychology*, 24, 349-354.
- Marks, D. F. 1973 Visual imagery differences in the recall of pictures. *British Journal of Psychology*, 64, 17-24.
- McGrath, R. E., O'Malley, W. B., Dura, J. R., & Beaulieu, C. 1989 Factors analysis of the Verbalizer-Visualizer Questionnaire. *Journal of Mental Imagery*, 13, 75-78.
- Paivio, A. 1971 *Imagery and Verbal Processes*. New York: Holt, Rinehart, & Winston.
- Richardson, A. 1977 Verbalizer-visualizer: A cognitive style dimension. *Journal of Mental Imagery*, 1, 109-126.
- Richardson, J. T. E. 1980 *Mental Imagery and Human Memory*. London: Macmillan.
- 芝 祐順 1979 因子分析法 (第2版) 東京大学出版会.
- 末永俊郎 (編) 1987 社会心理学研究入門 東京大学出版会.
- 須永範明 1988 人物記憶と認知スタイル 日本大学心理学研究, 10, 35-39.